

# 伊勢原市公式イメージキャラクター「クルリン」着ぐるみ使用マニュアル

## 1. 事前確認事項

着ぐるみを使用する前に、以下の点を必ず確認してください。

### 人員体制

- 装演者は、2人以上で順次交替していく体制が望ましい
- 連続可動時間は、30分以内（6月～9月は15分以内）とし、必ず休憩を取り水分補給をする
- アテンダント（随行補助者）を必ず1名以上つけ、イベント中に着ぐるみが周囲の器物やお客さん等にぶつかったり、転んだりしないように常に注意を払う
- ※小学生以下が集まるイベントでは、アテンダントを最低3名つける
- 装演者及びアテンダントは、必ず当マニュアルを熟知しておくこと
- イベント等においては、演出等について司会者等と十分に打合せを行うこと
- ※クルリンは、イベント中に会話等で声を出すことは禁止しています

### 控室の確保

- 控室は、着替えに十分なスペースがあり、着ぐるみを広げることのできる部屋を用意する
- 目隠しのパーテーションやテント等を用意し、外部から覗かれることがないように留意する
- 控室は関係者以外立ち入り禁止区域内に設ける

### 運搬車両等の確保

- 着ぐるみ〔頭部：高さ約110×幅約100×奥行き約110cm・ボディ：高さ約80×幅約83×奥行き約64cm・手（左右各1）・足（ズボン型）・靴（左右各1）の5パーツから構成〕を積載できる車両及び2人以上の運搬人員を準備する
- 使用状況等を確認し、受け渡し・返却の調整を行う

## 2. 着ぐるみに入る人について

着ぐるみは視界があまり良くない上、構造や素材の関係で動きが制限されるため、装演者は周囲の状況に十分注意して危険のないようにしてください。また、初めて着ぐるみを着用する際には、事前に着ぐるみを試着して、視界、動き等に慣れた上で本番に臨んでください。

着ぐるみを着て演技するというのは、大変汗をかくものです。汗は放っておくとシミになり、カビや雑菌の繁殖原因にもなります。汗が着ぐるみに浸み込むのを最小限に抑えるため、事前の準備が必要です。

着ぐるみは、装演者の身長が約155～170cmとして設計されています。175cm以上の人は、着ぐるみの頭部が浮きボディと離れ、隙間ができてしまうため、入るのには適していません。

### 基本の服装

- 頭：メッシュの水泳帽、バンダナ、手ぬぐい等を頭に巻く。長い髪はゴムでまとめ、手ぬぐい等で髪がたれてこないようにする
- ※ヘアピン、ピン止め等は使用しないことが望ましい
- 顔：眼鏡は使用せず、裸眼かコンタクトを使用する。やむを得ず、眼鏡を使用するときは、曇り

止め、眼鏡バンドをする

- 体：上：長袖シャツ、手袋（軍手可）、下：ジャージ、スパッツ、レギンス（足首まで覆うもの）
- 足：着ぐるみ内に靴があるので、自分の足のサイズと合わせて靴下を選ぶ ※素足は不可

#### 注意事項

- 外部から絶対に見えない着替え場所と、着ぐるみを着用したまま移動できる通路を確保する
- 眼鏡、ピアス、アクセサリは外す（メガネをかける場合は固定ベルトの使用を推奨します）
- 化粧はなるべくしないようにし、する場合は薄化粧にする
- 前日の睡眠不足、二日酔い等は厳禁。必ず適度なストレッチ等の準備運動をする
- 着用したままの火気の使用、喫煙は厳禁
- 雨天・降雪等の天候時については、屋外使用はしない
- 原則、泥の上では直に使用しない（使用する場合はシートを敷く、足をビニールで覆う）
- 緊急に着ぐるみを脱がなければならない事態に備えて、アテンダントへのサイン、伝達方法を決めておく

### 3. 着ぐるみ各部の説明

頭部（頭に被る）、ボディ（肩ベルトで装着）、手（手を入れる）、足（足を入れる）、靴（中にサンダルが固定されている）

### 4. 着替えの手順 ※必ず数人で着用してください

- ①まず足をはく。ズボン状になっているので、そのままはくこと
- ②靴をはく。ここで、先にはいたズボンの足首部分を、靴の上からかぶせるようにする
- ③キキョウ模様が背中にくるように、上からかぶるようにして胴体を着用する。肩ベルトを装着する際、背中でベルトが交差するように装着し、ベルトが肩からずり落ちることを防ぐ。胴体の位置はベルトの長さで調整する
- ④手を入れる。両腕がベルトでつながるので、ベルトを肩からかける。肩から落ちないようにベルトをヒモや安全ピンなどで留める。また、ベルトが胴体と頭の隙間から見えないように固定する
- ⑤最後に頭部をつける。内部にヘルメットがあるので、頭の位置を調整しながらゆっくり装着すること。装着前に、タオルやヘルメットインナーを着用し、髪や汗が垂れてこないようにする。なお、頭を固定するベルトはついていない。歩くときなどは、頭が取れないように注意すること
- ⑤脱ぐ際は逆の手順で脱いでいく

### 5. 装演時の注意点（中に入る人向け）

#### 動き

- 動きはオーバーアクション気味に動く  
⇒手足が短いので、意識的に大きく動かないと見ている側には着ぐるみの動きが小さく見える。
- のけぞるような動作や、段差を越えるときは注意する  
⇒頭部が大きくバランスが取りづらいので、後ろに転倒、もしくは頭部がずり落ちる可能性がある。

段差を越えるときは、なるべく傍にアテンダントがつき、倒れないよう注意する。

●小さな子どもとの握手は、できるだけしゃがんで行う

⇒子どもは大きな着ぐるみに見下ろされる感覚になり、恐怖心を抱くことがある。

●小さな子どもがいる場合は、ゆっくり動く

⇒視界が悪く、足下が見えにくいいため、動く際はケガをさせないように注意が必要である。

●子どもを抱きかかえる行為、イメージダウンにつながる行為は厳禁

#### 発声

●演技中に声を発することは厳禁。特にアテンダントとの雑談は厳禁

●装演者の感情は表に出さない ⇒不都合な事態はアテンダントに対応してもらう。

●アテンダントとの間に「緊急事態」「トイレ」等を知らせるサインを決めておく

⇒周囲の人から殴る蹴る等の行為を受けた際も、アテンダントへのサインで対処する。

#### 移動

●進行スピード・方向については、アテンダントの指示に必ず従う

●事故につながる恐れがあるため、走る行為は厳禁

#### 環境

●必ず一定の時間を守り装演する。基本は30分（6月～9月は15分）ごとに休憩をとる。

無理・無茶な行動は絶対にしない

⇒炎天下での装演は時間を調整し、水分補給は必ず行う。保冷剤での体の冷却も効果的。

●着ぐるみは、造りと素材の関係から小さな歩幅でしか歩くことができないため、長い距離を歩く、階段・段差を越えることは難しいので注意する。

●装演中に破損したときは、直ちに使用を中止する。

## 6. 装演時の注意点（アテンダント向け）

#### 位置

●着ぐるみとは、「付かず離れず」を心がけ、有事の際にはすぐ対応できる距離にいる

●必ず着ぐるみの斜め前あたりから先導し、必要なときは手を引いて着ぐるみの歩行を補助する

⇒進行方向や障害物の存在を確認し、装演者に伝える。子どもの突進は必ず止める。

●段差を越える際は、重心が後ろに傾き、転倒する恐れがあるので、傍で支える。

⇒同様に、のけぞるような姿勢を取るときも注意する

●アテンダントが2人以上付く場合は、前後に分かれる ⇒振り返るとき等、後方は危険。

#### 声かけ

●5分～10分おきに、必ず状況を装演者へ知らせる

●歩くとズボンがめくれ、装演者の足が見えてしまうため、定期的にズボンの位置を直す

●握手・写真撮影は、必ず正面からクルリンにオーダーするようゲストにアナウンスする

●控室以外で、装演者と無駄話をしない

#### 対応

●周囲の状況に絶えず気を配り、声かけにより状況を装演者へ知らせる

●装演者の様子に気を配り、無理をさせないようにする

⇒出演時間を予め決めておき、時間管理の上、切り上げるタイミングも考えておく。延長は避ける。

- 着ぐるみに危害を加える人には、毅然とした態度で注意する
  - ギャラリーの「入ってるの、男？女？」の質問へは、「クルリンはクルリンですよ！」とにこやかに一言だけ答える ⇒クルリンのイメージを守るため、装演者について答えることは厳禁。
  - 握手や写真撮影の際、人の整理を行う
- ※アテンダントも事前に着ぐるみを装着（体験）しておくとう望ましい。

## 7. 取扱い・片付け・管理

劣化を防ぐため、丁寧に持運び・保管等を行い、転がす、引きずるような乱暴な扱いはせず、限界以上の動きはしないでください。

かび等を防ぐため、正しい片付け方で返却し、保管してください。また、破損したり汚れたりした場合には、必ず広報戦略課まで連絡してください（重大な破損等が生じた場合は、指定の専門業者でクリーニング・修理補修を行い、原状に復した状態にして返却すること）。

次の人が気持ちよく使用できるようご協力をお願いします。

### 頭部・ボディ・手足・靴

- 内側の汗等はきれいなタオル等で拭き取り、内部に消臭・殺菌スプレー等（メディゾール、ライゾール等アルコール系のもの。市販のファブリーズやリセッシュ等も可）を吹きかけ、風通しの良い所で陰干しし、十分に乾かす。また、表面のポアの汚れは、手で叩くか、固く絞ったきれいなタオルで軽く水拭きしてから、付属の袋に入れて返却をする
- 頭部、ボディ、靴は専用の袋に入れる。手足はビニール袋にしまい、ボディの中の空洞と一緒に入れる

## 8. 運搬と保管

- 運搬時は必ず袋に入れた状態で、頭部、ボディに各2人以上の人員を確保し、慎重に取り扱う。特に、頭部のコマの心棒を床に接するように置くと折れてしまうため、心棒に余計な圧がかからないように置く。
- 車両での移動の際は、車内で着ぐるみが揺れて破損等することのないよう柔らかいもの等で固定する。
- その他、運搬・返却・保管等については、広報戦略課の指導に従い行うこと